

終わりに

“漢字指導の実際”という標題から、もっと直接的具体的な指導の秘訣を期待されていた方が多かったであろう。その意味では期待外れかもしれない。しかし、私の体験からすれば、以上述べて来たような抜本的な方策を取らなければ、漢字学習は今以上には絶対に良くなるらない。

文部省や教育委員会の研究指定校の漢字教育の研究発表を見ていつも思うのだが、それは重箱の隅をつつくようなことをしているのに過ぎない。今、ここにそういう研究物がいくつもあるが、いずれも数年にわたる全校あげての労作であろう。しかし、それでどれだけ子供たちの漢字力を向上させたというのか。

また、この発表のあと、何年間それを維持できるのか。大方発表を最後に研究は終わり、元の木阿弥に戻るだけであろう。こういう泡沫的な研究は、まったく無意義だとは思わないが、決して望むべきものでない。

本書を手にする先生方は、皆、教育に生き甲斐を求め、真剣によ

り良い教育法を追求していらっしゃる先生方だと思う。故に、あえて困難(私は少しもそうは思わなかったが)ではあっても、はるかに効果の高い抜本的漢字教育法を紹介した次第である。一人でも多くの先生に共鳴され、採用されるように祈って筆を擱く。